

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	令和8年3月20日	評価結果市町村受理日	令和8年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270100461-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中でやりがいや生きがいを感じていただく支援に尽力しています。敷地内の畑で野菜を収穫した後、皆で野菜の仕込み作業を行ったり、何気ない作業を分担しそれぞれの利用者様が周りの役に立っていると感じあえる互恵関係が築かれています。施設中庭で日光浴や春には花見をされたり、ふきやタケノコ堀りをして収穫し食して頂くなど季節を感じて頂いています。また移動販売で買い物の楽しさを感じて頂いたり、玄関を出て直ぐのところに手すりを設けて、外の景色を見ながらの屈伸運動やプランターのお花に水やり、運動がてらAユニットからBユニットまで新聞を届けたり、塗り絵をされる方など、それぞれ自主的に日課にされながら過ごされています。月に一回、音楽療法士さんも来訪され、2ユニット合同で歌や楽器を楽しまれています。今年度から職員のユニット間の垣根を外した事で職員全員がそれぞれの得意分野で利用者様の事を施設全体が和気あいあいと運営に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱海から伊豆急行線に乗ることおよそ50分、「伊豆熱川駅」が最寄りです。駅を降り立つと、温泉やぐらの湯煙りが旅人を出迎えてくれます。「熱川バナナワニ園」をはじめ、観光スポットが目白押しですが、事業所は山間に向かう道すがらにひっそりと佇んでいます。それでも人の往来頻度は高く、例えば熱川、稲取、河津と広域で中学生徒の福祉体験学習を毎年受入れています。熱川中学校と稲取中学校には認知症サポーターの養成講座(東伊豆町の地域包括支援センター主催)にも講師派遣の協力をおこない、認知症の知識及び認知症ケアの啓発活動にも余念がありません

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所・各棟キッチン内に掲示し職員間で共有している。 利用者様へ日々やりがいを与え生きがいのある暮らしを実践している。	運営理念は所内に4か所掲示しています。利用者ができることを伸ばす、もしくは低下しないように働きかけていくことを心がけ、できないところは職員が黒子としてフォローすることで、利用者本人の有用感を担保しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣中学校の福祉体験学習の受け入れをすることで交流を深めることが出来ている。	地域の中学校の福祉体験学習には毎年貢献しており、受入れは多い時には1日20名余ということもありますが、隣にある小規模多機能事業所にも分かれてもらって、賑やかな1日となる日もあります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で学生や地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で学生や地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。	「家族会及び地域とのふれあい会」という名称で運営推進会議を隔月開催しています。東伊豆町介護係、民生委員(2名)、地域包括支援センター、家族というメンバー構成ですが、本年度は家族の参加は得られませんでした	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の「認知症にやさしい町づくり連絡会」のメンバーとして地域包括支援センター職員や他事業所の方々と密に連携している。 運営推進会議に出席いただき情報を提供している。	地域包括支援センター主催の「見守りネットワーク」では、年1回「高齢者捜索模擬訓練」が実施されており、直近では熱川交番から通報する訓練がおこなわれています。事業所からお願いして利用者家族も1名参加くださっています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は施錠せずに、敷地内は自由に活動していただいている。外へ出て一緒に付き添い行動を共にする支援を行っている。身体拘束についての研修を年2回施設内で行っている。	頻回に立ち上がる利用者「立っちゃダメ」とのスピーチロックがでてしまう、との課題があります。「ずっと座っていたら立ち上がりたくありませんか」と職員に投げかけ、自分の身に置き替えるよう指導を図っています	身体拘束廃止や虐待防止に関する議事録や研修報告書の作成はできていますが、今後は職員がそれらの書面を「確実に閲覧できているか」のチェック機能が高まることを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居時に自宅での虐待がないか細心の注意を払って見過ごさないようにしている。 「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解に努めている。研修も年2回実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様は現在1名おられます。また、今後必要ではないかと思われる方にも説明を行っています。弁護士の方、社会福祉士の方と密に連携を図りながら支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は契約締結時前より説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に説明している。加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解して頂いた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町内在任のご家族様とは毎月のお支払い時に近況報告やご要望などやり取りを行っている。入居者様の日ごとの様子については写真付きアルバムを作成し送付している。遠方のご家族様とはズームや電話、メールでのやり取りで様子を伝えるように努めている。	日常の様子がわかるよう写真入りの「あたがわアルバム」を毎月発行しています。写真NGの利用者家族には代替として管理者が月1回は必ず電話で連絡を取っています。家族からは本人の好みの日用品が届いています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週両ユニット同時にズームミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、迅速な判断をして利用者様への対応に活かしている。各ユニットの主任が職員の意見を伺い、代表者との話し合いを行っている。	日々の申し送りはユニット毎におこない、ミーティングは週に1回、次週の予定確認を含み、主には利用者の状態や事例検討として実施されています。管理者は全職員に平等に接することを心がけており、個別面談も年に1回あります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生産性向上推進加算の申請により、生産性向上に努め、向上心をもっていただける職場・環境整備に努めている。また「働き方改革」委員会を設け職場環境・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。ユーチューブやズームを使った研修や内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。ユーチューブやズームを使った研修や内部研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模多機能ホームより入居が決まった方は、事前にグループホームを見学し職員とのコミュニケーションを進め、要望等伺ってから安心して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入より、ご家族様が抱えている不安や困惑を取り除くため要望を伺い、ご本人様に添った生活が出来るよう家族と連携し居室作りを一緒に考えてもらい家族も入居者も安心して生活ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能ホームより移られる方が多く、事前に小規模多機能ホームの過ごし方や援助の方法を把握し、移ってからも安心して過ごせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事に応じて、お花の水やり、新聞配達、食器洗い・お盆拭き・洗濯物畳み・掃除等、それぞれ協力していただく事でより良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には可能な限り共に支援できる関係づくりを心掛けて例えば必要な物の購入や病院受診などをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの人や場との関係維持が途切れないよう面会を実施して頂いている。	感染症の蔓延対策以外は、面会の制限は設けていません。元同僚が訪れた利用者もいて、正月には孫やひ孫が足を運んでくださる利用者が半数程います。理美容の定期訪問はありますが、美容師の孫が施術下さるとい人もいます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話しやすいようにテーブルの席を配慮し、隣りの棟へも行き来しやすく利用者様同士で関わり合えるよう支援している。 お盆拭きや洗濯物たたみは利用者様同士で協力し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要請があれば相談や支援に応じている。入院中の方は病院の相談員より情報を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日頃からコミュニケーションを取り希望や意向の把握に努めている。またコミュニケーションの取れない方についてはご本人の立場となって検討している。	言動の要因を確認していったところ「パチンコをしたかった」ということが判り、実現を支援するようになっています。傾眠が目につく状況から、現在では生き生きとした表情が出てきて功奏しており、継続して援助していくこととしています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	小規模多機能ホームより移動される方については、引き継ぎによりできる限りサービスを継続し、生活歴はご本人様やご家族様より伺ってこれまで通りに暮らせるよう努めている。他施設や直接入居される方については、事前にご自宅を訪問し面談しこれまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時に言動を記録し一人ひとりの把握に努めている。 特変事項は更に記録を残し、職員間で共有しケアの向上に努めている。確認し共有する内容があれば申し送りやミーティングで詳細の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を把握しモニタリングを行っている。ご本人様・ご家族様に希望を伺い、ミーティング等で意見やアイデアを出し合っケアプランを作成している。	「介護サービス担当者会議の要点」シートにある「検討内容」と「意見」の欄へ、職員各自に直接記入してもらい、介護支援専門員がその内容をまとめるという作業をおこなうことで、「チームでつくる」につなげています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し職員間で共有している。特変事項はミーティングで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまで行ってきた外出支援については現状休止している。買い物については要望があれば職員が購入して来ている。歯科、床屋や美容院の訪問サービスを利用している。感染症の状況を確認しながら随時行っていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の市町にあるグループホームさんのクリスマス会や納涼祭に参加し交流を深めている。地域包括が行っている高齢者搜索模擬訓練にご家族と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療の医師により体調管理を行っている。専門医の受診の指示があれば職員が付き添い受診し、可能な限りご家族様と連携をとっている。 月に2回訪れる訪問看護師とも連携し、急変時は24時間指示を仰げる体制にある。	訪問診療の医療機関は2箇所使っていて、どちらを受診するかは、契約時に説明を通して家族に選んでもらっています。一つには10名の利用者が月1回の訪問診療を受けおり、残り8名の利用者がもう一方に月2回受診しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事前にミーティングにて利用者様の状態を話し合い、訪問看護師に伝えている。 小規模多機能ホームの看護師にもグループホームの利用者様について診ていただける環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師の病院への入院が主なため、入院後も医師や看護師と話しやすい関係になっている。 ホームで出来る事と出来ない事の線引きをしっかりと伝え早期の退院に協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に予め重度化から終末期についてホームで行えることを説明している。 終末期にはターミナル計画書を作成し、今後起こり得る事やホームで出来る事等をご家族様に確認していただいている。	「重症化対応・ケアの指針」に基づき、家族には契約時に説明しています。重要事項説明書に含まれており、抱合して同意を得ています。他に「私のリビングウイール」という書面があり、家族または本人から延命を目的とした医療処置等についての希望を確認しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初動の訓練は全ての職員に行っていないが、責任者、管理者が中心に対応している。上記不在の際はマニュアルに沿って他職員への応援要請や訪問看護師への連絡は速やかに行い、必要であれば救急搬送を要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、防火管理者は消防訓練実施報告書を作成し、参加していない職員も指摘事項を共有している。 食料品・水を備蓄し、町の福祉避難所として登録している。	5月、12月と法定訓練を計画的に遵守しています。2回の内1回は夜間想定でおこない、また防災設備会社の立ち合いでは水消火器による消火指導も受け、実践的に取り組んでいます。また避難訓練、通報訓練も併せて実施しています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 地元の方言を交えての会話で利用者様と打ち解けている。焦らせないような言葉かけを心掛けている	職員が「あまっこ」「こらっしえ」といった方言を使うことで利用者の気持ちも和み、同じ地域に生まれ育っている利点を活かして信頼関係を構築していますが、方言で親しい間柄を形成しても、敬意を持つことは大切にしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に思いを伝えていただけるよう一人ひとりと信頼関係を築けるように心掛けている。 その中で本人が気軽に希望や相談などを話せる場を作り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで過ごされている。自己決定の意思表示や行動できない方については、職員から要望を伺いご本人の希望になるべく沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は身だしなみを整え不快感がないように支援している。自分で選べる方には好きな衣服を選んでもらっている。選べない方には職員がコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしのひげとりなどの下処理や盛り付けなどを皆で談話しながら楽しく手伝って頂いている。またそれぞれの好みや食べたいもののリクエストを聞いたりして楽しみにして頂いている。	もやしのひげ取りは半数程、包丁での皮むきは2名の利用者が手伝い、畑で露を収穫したり、竹藪で職員が掘り起こした筍の処理も、昔取った杵柄です。一方、食事介助が必要となっても自助具を導入するとか、食器の形を変えるなどして、できるだけ「自分で」を励行しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。 嚥下の悪い方にはとろみ剤でトロミをつけたり、刻み食や食べやすい器にする等工夫している。 好物を用意したり、栄養補助食品を用いて栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っている。スポンジやガーゼを使い一人ひとりの状態に合わせてケアを行っている。 月に一度、ご希望の方は歯科衛生士の訪問にて指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残しパターンを把握し、トイレで排泄出来るタイミングを計っている。ご自分でできる方にはパッド交換しやすい製品を導入している。できない方についても尿量や皮膚状態に合わせておむつを選択し提供している。	布パンツが2名(パット併用)、その他の16名はリハビリパンツ(夜間のみテープ式おむつの利用者が4名)を使っています。布パンツの利用者は自立しており、リハビリパンツ着用の利用者の半数は尿意を感じてトイレに向かっています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためオリゴ糖、ヨーグルトを毎日摂取して腸内環境を整えるようにしている。便秘の際は、一人ひとりに添ったやり方で主治医や訪問看護師に相談しながら下剤を調整し服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に希望を伺い時間や順番を決めている。月に一度、季節風呂の担当職員が中心に、お花・香草・果物・お茶等の変わり風呂を準備して楽しんでいただいている。	週2回を入浴頻度としています。日常的には事業所で用意した入浴剤を使っていて、冬至の柚子湯のほか、薔薇を浮かべる日もあります。薔薇は、職員の知人を通じて地元の河津バガテル公園から譲ってもらっています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていないのでテレビを観ていたり談話や読書をするなどしてからお休みになっている。エアコンで温度の調整や加湿器を使用して快適な睡眠を促している。また足が浮腫む方には踏み台や拳上して頂くなどして休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をタブレットに取り込み常に見れるようになっていて職員で共有している。利用者の内服薬を薬剤師さんが管理しお薬ケースにセットして頂いている。薬の変更の際は申し送りを行い、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理が出来る方には手伝って頂いたり、趣味のエレクトーン(キーボード)やパチンコなど張り合いをもって日々生活できるよう支援している。また音楽療法やレクリエーションを皆と一緒に楽しんでいる。利用者様の習字や塗り絵の作品を掲示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣には近所の神社へ混む時間を避けて外出している。お天気の良い日はホーム中庭で日光浴や花見をしながら季節を感じて頂いている。	シフトの関係で散歩ができない日は、玄関先のベンチに座って利用者の話を聞くといった工夫をおこなっています。また伊東市内にあるグループホームは双方の代表者が友人というご縁から、クリスマスと納涼祭に招いてもらっています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金はお持ちいただかないようにしていますが管理能力がありご家族の承諾を得た方はたくさんのお金ではないが所持している方もおり移動販売等で使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい場合は事務所に訪れ主に管理者が取り次いでいる。 書ける方には年賀状を送付する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線を分かり易く掲示し、スイッチの位置の掲示も大きく分かり易くしている。使用中の札を用意し、使用後には消臭スプレーを使い他の方に気配りしている。季節感のある掲示物を意識して行っている。	塗り絵が大好きな利用者は、今ではぼかし塗りをするまでに上達していて、有用感の高まりとなるようにとの思いからか、壁に飾られています。他にも職員紹介の写真が掲示され、利用者が名前を確認したり、会話の弾みに実っています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル席の他にソファを配置し、テレビを見るだけでなく洗濯物を利用者様同士で畳む社交場の役目になっている。玄関や野外にも椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を用意していただき自宅での生活に近い環境を作り居心地の良い生活が出来るような空間づくりをしている。月日を重ねた利用者様の居室にはホームでの思い出の品で満たされ一人ひとり個性ある居室で生活されている。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼットが予め備わっています。ぬいぐるみ、家族の写真、籐のイス、姿見鏡、テレビの持ち込みがあります。「弾きたい」との声から、管理者が自宅にあったエレクトーンを寄贈した居室もありました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸には利用者様の顔写真と名前を掲示して間違わないようにしている。トイレのスイッチ等の分かりにくい箇所には大きな表示を出して自力で行えるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	令和8年3月20日	評価結果市町村受理日	令和8年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270100461-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中でやりがいや生きがいを感じていただく支援に尽力しています。敷地内の畑で野菜を収穫した後、皆で野菜の仕込み作業を行ったり、何気ない作業を分担しそれぞれの利用者様が周りの役に立っていると感じあえる互恵関係が築かれています。施設中庭で日光浴や春には花見をされたり、ふきやタケノコ堀りをして収穫し食べて頂くなど季節を感じて頂いています。また移動販売で買い物の楽しさを感じて頂いたり、玄関を出て直ぐのところに手すりをつけて、外の景色を見ながらの屈伸運動やプランターのお花に水やり、運動がてらAユニットからBユニットまで新聞を届けたり、塗り絵をされる方など、それぞれ自主的に日課にされながら過ごされています。月に一回、音楽療法士さんも来訪され、2ユニット合同で歌や楽器を楽しまれています。今年度から職員のユニット間の垣根を外した事で職員全員が利用者様と関わり合う事で施設全体が和気あいあいとした雰囲気になってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱海から伊豆急行線に乗ることおよそ50分、「伊豆熱川駅」が最寄りです。駅を降り立つと、温泉やぐらの湯煙りが旅人を出迎えてくれます。「熱川バナナワニ園」をはじめ、観光スポットが目白押しですが、事業所は山間に向かう道すがらにひっそりと佇んでいます。それでも人の往来頻度は高く、例えば熱川、稲取、河津と広域で中学生徒の福祉体験学習を毎年受入れています。熱川中学校と稲取中学校には認知症サポーターの養成講座(東伊豆町の地域包括支援センター主催)にも講師派遣の協力をおこない、認知症の知識及び認知症ケアの啓発活動にも余念がありません

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所・各棟キッチン内に掲示し職員間で共有している。 利用者様へ日々やりがいを与え生きがいのある暮らしを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校の福祉体験学習の受け入れをすることで交流を深めることが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で学生や地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で学生や地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の「認知症にやさしい町づくり連絡会」のメンバーとして地域包括支援センター職員や他事業所の方々と密に連携している。 運営推進会議に出席いただき情報を提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は施錠せずに、敷地内は自由に活動していただいている。外へ出て一緒に付き添い行動を共にする支援を行っている。 身体拘束についての研修を年2回施設内でやっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居時に自宅での虐待がないか細心の注意を払って見過ごさないようにしている。 「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解に努めている。研修も年2回実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様は現在1名おられます。また、今後必要ではないかと思われる方にも説明を行っています。弁護士の方、社会福祉士の方と密に連携を図りながら支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は契約締結時前より説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に説明している。加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解して頂いた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町内在任のご家族様とは毎月のお支払い時に近況報告やご要望などやり取りを行っている。入居者様の日ごろの様子については写真付きアルバムを作成し送付している。遠方のご家族様とはズームや電話、メールでのやり取りで様子を伝えるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週両ユニット同時にズームミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、迅速な判断をして利用者様への対応に活かしている。各ユニットの主任が職員の意見を伺い、代表者との話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生産性向上推進加算の申請により、生産性向上に努め、向上心をもっていただける職場・環境整備に努めている。また「働き方改革」委員会を設け職場環境・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。ユーチューブやズームを使った研修や内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。ユーチューブやズームを使った研修や内部研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模多機能ホームより入居が決まった方は、事前にグループホームを見学し職員とのコミュニケーションを進め、要望等伺ってから安心して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入より、ご家族様が抱えている不安や困惑を取り除くため要望を伺い、ご本人様に添った生活が出来るよう家族と連携し居室作りを一緒に考えてもらい家族も入居者も安心して生活ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能ホームより移られる方が多く、事前に小規模多機能ホームの過ごし方や援助の方法を把握し、移ってからも安心して過ごせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事に応じて、お花の水やり、新聞配達、食器洗い・お盆拭き・洗濯物畳み・掃除等、それぞれ協力していただく事でより良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には可能な限り共に支援できる関係づくりを心掛けて例えば必要な物の購入や病院受診などをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの人や場との関係維持が途切れないよう面会を実施して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話しやすいようにテーブルの席を配慮し、隣りの棟へも行き来しやすく利用者様同士で関わり合えるよう支援している。 お盆拭きや洗濯物たたみは利用者様同士で協力し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要請があれば相談や支援に応じている。入院中の方は病院の相談員より情報を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日頃からコミュニケーションを取り希望や意向の把握に努めている。またコミュニケーションの取れない方についてはご本人の立場となって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	小規模多機能ホームより移動される方については、引き継ぎによりできる限りサービスを継続し、生活歴はご本人様やご家族様より伺ってこれまで通りに暮らせるよう努めている。他施設や直接入居される方については、事前にご自宅を訪問し面談しこれまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時に言動を記録し一人ひとりの把握に努めている。 特変事項は更に記録を残し、職員間で共有しケアの向上に努めている。確認し共有する内容があれば申し送りやミーティングで詳細の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を把握しモニタリングを行っている。ご本人様・ご家族様に希望を伺い、ミーティング等で意見やアイデアを出し合っ てケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し職員間で共有している。特変事項はミーティングで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまで行ってきた外出支援については現状休止している。買い物については要望があれば職員が購入して来ている。歯科、床屋や美容院の訪問サービスを利用している。感染症の状況を確認しながら随時行っていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の市町にあるグループホームさんのクリスマス会や納涼祭に参加し交流を深めている。地域包括が行っている高齢者搜索模擬訓練にご家族と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療の医師により体調管理を行っている。専門医の受診の指示があれば職員が付き添い受診し、可能な限りご家族様と連携をとっている。 月に2回訪れる訪問看護師とも連携し、急変時は24時間指示を仰げる体制にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事前にミーティングにて利用者様の状態を話し合い、訪問看護師に伝えている。 小規模多機能ホームの看護師にもグループホームの利用者様について診ていただける環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師の病院への入院が主なため、入院後も医師や看護師と話しやすい関係になっている。 ホームで出来る事と出来ない事の線引きをしっかりと伝え早期の退院に協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に予め重度化から終末期についてホームで行えることを説明している。 終末期にはターミナル計画書を作成し、今後起こり得る事やホームで出来る事等をご家族様に確認していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初動の訓練は全ての職員に行えていないが、責任者、管理者が中心に対応している。上記不在の際はマニュアルに沿って他職員への応援要請や訪問看護師への連絡は速やかに行い、必要であれば救急搬送を要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、防火管理者は消防訓練実施報告書を作成し、参加していない職員も指摘事項を共有している。 食料品・水を備蓄し、町の福祉避難所として登録している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 地元の方言を交えての会話で利用者様と打ち解けている。焦らせないような言葉かけを心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に思いを伝えていただけるよう一人ひとりと信頼関係を築けるように心掛けている。 その中で本人が気軽に希望や相談などを話せる場を作り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで過ごされている。自己決定の意思表示や行動できない方については、職員から要望を伺いご本人の希望になるべく沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は身だしなみを整え不快感がないように支援している。自分で選べる方には好きな衣服を選んでもらっている。選べない方には職員がコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしのひげとりなどの下処理や盛り付けなどを皆で談話しながら楽しく手伝って頂いている。またそれぞれの好みや食べたいもののリクエストを聞いたりして楽しみにして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。 嚥下の悪い方にはとろみ剤でトロミをつけたり、刻み食や食べやすい器にする等工夫している。 好物を用意したり、栄養補助食品を用いて栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っている。スポンジやガーゼを使い一人ひとりの状態に合わせてケアを行っている。 月に一度、ご希望の方は歯科衛生士の訪問にて指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残しパターンを把握し、トイレで排泄出来るタイミングを計っている。ご自分のできる方にはパッド交換しやすい製品を導入している。できない方についても尿量や皮膚状態に合わせておむつを選択し提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためオリゴ糖、ヨーグルトを毎日摂取して腸内環境を整えるようにしている。便秘の際は、一人ひとりに添ったやり方で主治医や訪問看護師に相談しながら下剤を調整し服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に希望を伺い時間や順番を決めている。月に一度、季節風呂の担当職員を中心に、お花・香草・果物・お茶等の変わり風呂を準備して楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていないのでテレビを観ていたり談話や読書をするなどしてからお休みになっている。エアコンで温度の調整や加湿器を使用して快適な睡眠を促している。また足が浮腫む方には踏み台や拳上して頂くなどして休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をタブレットに取り込み常に見れるようになっていて職員で共有している。利用者の内服薬を薬剤師さんが管理しお薬ケースにセットして頂いている。薬の変更の際は申し送りを行い、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理が出来る方には手伝って頂いたり、趣味のエレクトーン(キーボード)やパチンコなど張り合いをもって日々生活できるよう支援している。また音楽療法やレクリエーションを皆と一緒に楽しんでいる。利用者様の習字や塗り絵の作品を掲示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣には近所の神社へ混む時間を避けて外出している。お天気の良い日はホーム中庭で日光浴や花見をしながら季節を感じて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金はお持ちいただかないようにしていますが管理能力がありご家族の承諾を得た方はたくさんのお金ではないが所持している方もおり移動販売等で使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい場合は事務所に訪れ主に管理者が取り次いでいる。 書ける方には年賀状を送付する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線を分かり易く掲示し、スイッチの位置の掲示も大きく分かり易くしている。使用中の札を用意し、使用後には消臭スプレーを使い他の方に気配りしている。季節感のある掲示物を意識して行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル席の他にソファを配置し、テレビを見るだけでなく洗濯物を利用者様同士で畳む社交場の役目になっている。 玄関や野外にも椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を用意していただき自宅での生活に近い環境を作り居心地の良い生活が出来るような空間づくりをしている。月日を重ねた利用者様の居室にはホームでの思い出の品で満たされ一人ひとり個性ある居室で生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸には利用者様の顔写真と名前を掲示して間違わないようにしている。トイレのスイッチ等の分かりにくい箇所には大きな表示を出して自力で行えるように工夫している。		